

# 旧東海道走り旅シリーズ 有松宿～宮宿 宮宿で我が家のルーツを見つかったり

二十一年月二日

フル百回楽走会

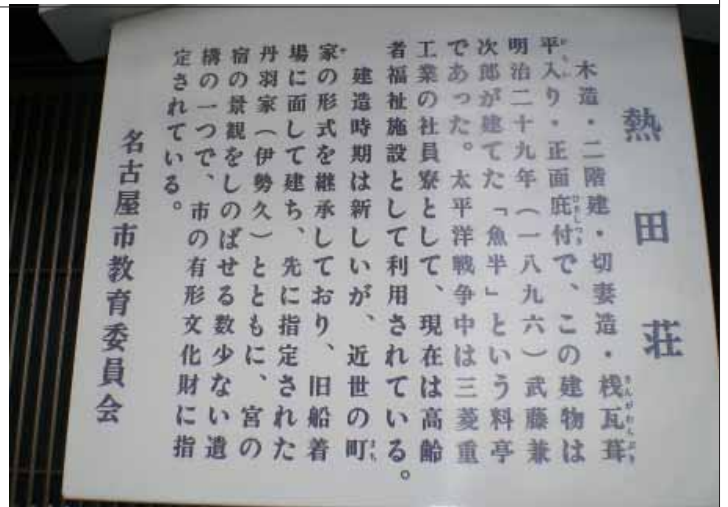
593

武藤 翔峰

2月26日(木)洋友会(旧職場の親睦会)の歩こう会で旧東海道、桶狭間古戦場(有松宿)から宮宿まで約15kmを歩いてきました。前日の開催予定を雨天のため今日に延期した甲斐があり大変良い天候となりました。今日の大きな収穫は、私の家系のルーツをゴールの宮宿で発見したことです。宮宿の船着場に面した大きな建物には名古屋市教育委員会の案内板があり、次のように記載されています。「木造・二階建・切妻造・桧瓦葺平入り・正面庇付でこの建物は明治29年(1896年)武藤兼次郎が建てた「魚半」という料亭であった。戦争中三菱重工業の社員寮にされ、現在は高齢者福祉施設として利用されている。建造時期は新しいが、近世の町屋の形式を継承しており、旧船着場に面して建ち、宮の宿の景観をしのばせる数少ない遺構の一つで、市の有形文化財に指定されている。名古屋市教育委員会」私の祖父、武藤銀太郎は兼次郎の弟で明治30年、24歳で陸軍第9師団が金沢に進駐したとき、御用商人として同行し、同時に金沢で料亭「魚半」を興したということを知り、もともと私の家は名古屋の出身だと知っていたので、そのことを改めて確認でき感慨深いものがありました。この宮宿は東海道七里の渡しの起点であり、同時に現在の我が家の近くを通る美濃路街道の終点(起点)でもあり、何か不思議な因縁を感じます。すでに完踏した中山道やこれから完踏を目指す東海道、甲州街道、日光街道、奥州街道の日本の五街道をはじめ、各地の街道歩きに一層の励みとなりました。



先代が建てたという旧「魚半」



宮宿 七里の渡し





武藤兼次郎が建てた旧「魚半」



七里の渡しから望む旧「魚半」



武藤銀太郎が建てた旧「魚半」



現在の「魚半」：香林坊店



現在の「魚半」：武家屋敷店



岐阜の「魚半食堂」



### 鳴海宿：

鳴海宿(なるみじゅく)は、東海道40番目の宿場で、現在の愛知県名古屋市長区にある。鳴海は古くは成海とも書き海に面していたが、今は土砂の堆積で海は遠く離れてしまった。

鎌倉時代は鎌倉街道が通り、戦国時代は織田・今川両勢力の接触地点で、鳴海城が設けられた。

江戸時代から始まった木綿の鳴海絞は東海街道の名産品として人気をばくし、現在も伝統産業として続いている。

宮宿までの史跡・みどころ

笠寺一里塚：名古屋市内に現存する唯一の一里塚で、東側だけが残る。江戸から88里。

笠寺観音：正式には笠覆寺。尾張四観音の1つ。

本陣：1、脇本陣2：、旅籠68：、人口：3,643人